

## 仙台市男女共同参画社会に関する市民意識調査 単純集計(全体)

有効回収数 1,062件  
有効回収率 42.5%

- ・調査数(N=Number of cases)とは、回答者総数あるいは分類別の回答者数のことである。
- ・回答の構成比は百分率であらわし、小数点第2位を四捨五入して算出している。従って、回答比率の合計が100%にならない場合がある。
- ・回答者が2つ以上の回答をすることができる多肢選択式の質問においては、全ての選択肢の比率を合計すると100%を超える。

## F1 性別

調査数	男性	女性	無回答
1,062	466	585	11
100%	43.9%	55.1%	1.0%

## F2 年齢

調査数		100%
20～24歳	35	3.3%
25～29歳	58	5.5%
30～34歳	62	5.8%
35～39歳	98	9.2%
40～44歳	107	10.1%
45～49歳	85	8.0%
50～54歳	90	8.5%
55～59歳	88	8.3%
60～64歳	137	12.9%
65～69歳	124	11.7%
70歳以上	177	16.7%
無回答	1	0.1%

## ※年代

調査数		100%
20代	93	8.8%
30代	160	15.1%
40代	192	18.1%
50代	178	16.8%
60代	261	24.6%
70代	177	16.7%
無回答	1	0.1%

## F3 結婚をしているか

調査数		100%
既婚(有配偶)	769	72.4%
既婚(離別または死別)	121	11.4%
未婚	168	15.8%
無回答	4	0.4%

## F4 職業

調査数	自分の職業		配偶者の職業	
		100%		100%
会社・団体などの役員	56	5.3%	44	5.7%
正規の社員・職員	305	28.7%	233	30.3%
派遣・契約社員	47	4.4%	28	3.6%
パート・アルバイト等非正規社員	146	13.7%	82	10.7%
自営業・家族従業	78	7.3%	48	6.2%
家事専業	156	14.7%	98	12.7%
学生	14	1.3%	0	0.0%
無職	226	21.3%	195	25.4%
その他	12	1.1%	5	0.7%
無回答	22	2.1%	36	4.7%

## F5 子どもの有無

調査数	子どもが いる	子どもが いない	無回答
1,062	767	287	8
100%	72.2%	27.0%	0.8%

## F5-1 一番下の子どもの年代

調査数		100.0%
乳幼児(就学前)	110	14.3%
小学生	78	10.2%
中学生	30	3.9%
中学校卒業以上で未成年	54	7.0%
成人	495	64.5%

## F6 小学校高学年当時の両親の就労状況

調査数	父親の就労状況		母親の就労状況	
	数	割合	数	割合
調査数	1,062	100%	1,062	100%
就労していた(フルタイム)	875	82.4%	318	29.9%
就労していた(パート・アルバイト等)	11	1.0%	254	23.9%
就労していなかった	18	1.7%	360	33.9%
父親/母親は、いなかった	57	5.4%	16	1.5%
わからない	9	0.8%	5	0.5%
その他	69	6.5%	75	7.1%
無回答	23	2.2%	34	3.2%

※父親のその他は自営業・家族従業66 それ以外3

※母親のその他は自営業・家族従業73 それ以外2

## F7 最終学歴

調査数	数	割合
調査数	1,062	100%
小・中学校	73	6.9%
高等学校・旧制中学校	371	34.9%
専門・専修学校	148	13.9%
短期大学・高等専門学校	139	13.1%
大学	280	26.4%
大学院	35	3.3%
その他	4	0.4%
無回答	12	1.1%

## 問1 次にあげるような分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。

分野	調査数	どちらかといえば男性の方が優遇されている		平等	どちらかといえば女性の方が優遇されている		わからない	無回答
		男性の方が非常に優遇されている	女性の方が非常に優遇されている					
家庭生活では	1,062	100	459	330	85	12	55	21
	100%	9.4%	43.2%	31.1%	8.0%	1.1%	5.2%	2.0%
職場では	1,062	177	468	243	42	14	82	36
	100%	16.7%	44.1%	22.9%	4.0%	1.3%	7.7%	3.4%
学校教育の場では	1,062	21	141	658	38	5	165	34
	100%	2.0%	13.3%	62.0%	3.6%	0.5%	15.5%	3.2%
町内会など地域活動の場では	1,062	52	305	409	75	9	182	30
	100%	4.9%	28.7%	38.5%	7.1%	0.8%	17.1%	2.8%
政治の場では	1,062	428	411	95	18	5	79	26
	100%	40.3%	38.7%	8.9%	1.7%	0.5%	7.4%	2.4%
法律や制度上では	1,062	147	371	327	58	9	122	28
	100%	13.8%	34.9%	30.8%	5.5%	0.8%	11.5%	2.6%
社会通念・慣習などでは	1,062	210	586	127	27	6	80	26
	100%	19.8%	55.2%	12.0%	2.5%	0.6%	7.5%	2.4%
社会全体では	1,062	165	625	136	33	9	71	23
	100%	15.5%	58.9%	12.8%	3.1%	0.8%	6.7%	2.2%

## ※問1 男性優遇と女性優遇の割合

分野	調査数	男性優遇小計		平等	女性優遇小計		わからない	無回答
		男性優遇	女性優遇					
家庭生活では	1,062	559	330	97	55	21		
	100%	52.6%	31.1%	9.1%	5.2%	2.0%		
職場では	1,062	645	243	56	82	36		
	100%	60.7%	22.9%	5.3%	7.7%	3.4%		
学校教育の場では	1,062	162	658	43	165	34		
	100%	15.3%	62.0%	4.0%	15.5%	3.2%		
町内会など地域活動の場では	1,062	357	409	84	182	30		
	100%	33.6%	38.5%	7.9%	17.1%	2.8%		
政治の場では	1,062	839	95	23	79	26		
	100%	79.0%	8.9%	2.2%	7.4%	2.4%		
法律や制度上では	1,062	518	327	67	122	28		
	100%	48.8%	30.8%	6.3%	11.5%	2.6%		
社会通念・慣習などでは	1,062	796	127	33	80	26		
	100%	75.0%	12.0%	3.1%	7.5%	2.4%		
社会全体では	1,062	790	136	42	71	23		
	100%	74.4%	12.8%	4.0%	6.7%	2.2%		

## 問2 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、どう思いますか。

調査数	賛成	どちらかといえば賛成	どちらかといえば反対	反対	わからない	無回答
1,062	79	416	280	147	120	20
100%	7.4%	39.2%	26.4%	13.8%	11.3%	1.9%

## ※問2 賛成派と反対派の割合

調査数	賛成小計	反対小計	わからない	無回答
1,062	495	427	120	20
100%	46.6%	40.2%	11.3%	2%

## 問2-1 賛成理由

調査数		
	495	100%
男性は仕事、女性は家事・育児に向いているから	87	17.6%
子どもが小さいころは、母親が家にいたほうが良いから	368	74.3%
社会全体にそういった風潮があるから	15	3.0%
わからない	0	0.0%
その他	14	2.8%
無回答	11	2.2%

## 問3 女性が働くことについて、どうお考えですか。

調査数		
	1,062	100%
子どもができて、ずっと働き続ける方がよい(育児休業を取得する場合を含む)	347	32.7%
出産を機会に退職し、育児が一段落した後、再び働く方がよい	491	46.2%
出産を機会に退職し、家事・育児に専念する方がよい	52	4.9%
結婚を機会に退職し、家事・育児に専念する方がよい	25	2.4%
女性は働かない方がよい	4	0.4%
わからない	33	3.1%
その他	79	7.4%
無回答	31	2.9%

## 問4 女性が働く上で、支障となることはどのようなことだと思いますか

調査数		
	1,062	100%
家事・育児・介護と仕事の両立が大変である	940	88.5%
家族の理解や協力が得られない	282	26.6%
保育施設や介護サービスが利用しにくい	502	47.3%
昇進・昇格・給与に男女間で差がある	323	30.4%
本人・配偶者の転勤がある	332	31.3%
長時間労働や残業がある	407	38.3%
結婚・出産時に退職慣行がある	196	18.5%
特に支障となることはない	20	1.9%
わからない	11	1.0%
その他	33	3.1%
無回答	13	1.2%

## 問5 政策や方針を決定する立場や指導的地位に女性が少ないという状況について、理由は何だと思いますか。

調査数		
	1,062	100%
男性優位の組織運営になっているため	741	69.8%
家族の理解や協力が得られないため	146	13.7%
女性の積極性が十分でないため(男性の方が積極性があるため)	166	15.6%
女性の能力を向上させる機会が不十分なため	373	35.1%
女性のロールモデル(働き方や生き方の見本となる存在)が少ないため	232	21.8%
わからない	42	4.0%
その他	52	4.9%
無回答	37	3.5%

## 問6 女性の起業を促進するためには、どのようなことが必要だと思いますか。

調査数		
	1,062	100%
起業に関する情報提供	498	46.9%
経営知識や技術を得る場の提供(相談窓口やセミナー開催など)	572	53.9%
開業に必要な資金の援助(融資制度や家賃補助など)	555	52.3%
起業家同士の交流やネットワークの場の提供	365	34.4%
特に必要なことはない	54	5.1%
わからない	109	10.3%
その他	50	4.7%
無回答	16	1.5%

問7 「ワーク・ライフ・バランス」という言葉をどの程度知っていますか。

調査数	言葉も内容も知っている	言葉を聞いたことはあるが、内容は知らない	全く知らない	無回答
1,062	242	389	418	13
100%	22.8%	36.6%	39.4%	1.2%

※問7 「知っている」:「言葉も内容も知っている」と「言葉は聞いたことはあるが、内容は知らない」の合計

調査数	知っている小計	全く知らない	無回答
1,062	631	418	13
100%	59.4%	39.4%	1.2%

問8 生活の中での「仕事」、「個人・家庭生活」、「地域活動」の優先度についておたずねします。

(1)希望に最も近いもの

調査数		1,062	100%
「仕事」を優先したい	71	6.7%	
「個人・家庭生活」を優先したい	345	32.5%	
「地域活動」を優先したい	6	0.6%	
「仕事」と「個人・家庭生活」をともに優先したい	419	39.5%	
「仕事」と「地域活動」をともに優先したい	10	0.9%	
「個人・家庭生活」と「地域活動」をいずれも優先したい	93	8.8%	
「仕事」と「個人・家庭生活」と「地域活動」をいずれも優先したい	79	7.4%	
わからない	28	2.6%	
無回答	11	1.0%	

(2)現実(現状)に最も近いもの

調査数		1,062	100%
「仕事」を優先している	253	23.8%	
「個人・家庭生活」を優先している	371	34.9%	
「地域活動」を優先している	11	1.0%	
「仕事」と「個人・家庭生活」をともに優先している	229	21.6%	
「仕事」と「地域活動」をともに優先している	12	1.1%	
「個人・家庭生活」と「地域活動」をいずれも優先している	74	7.0%	
「仕事」と「個人・家庭生活」と「地域活動」をいずれも優先している	24	2.3%	
わからない	28	2.6%	
無回答	60	5.6%	

問9 平均的な1日において、それぞれにどの程度の時間をかけていますか。

(1)仕事や学校がある日

	調査数	回答者数	無回答	平均時間
仕事、学校(通勤・通学時間を含む)	658	628	30	9:35
家事(炊事、買物、洗濯、掃除など)	658	625	33	1:50
育児、介護	658	571	87	0:31
睡眠時間	658	631	27	6:21
自由時間(仕事、学校、家事、育児、介護、睡眠、食事など以外の時間)	658	615	43	3:06

※F4の自分の職業で「家事専業」「無職」を選択した人および「無回答」の人(計404人)を除く

※平均時間は、回答者数の合計時間を回答者数で割ったもの

(2)仕事や学校が無い日

	調査数	回答者数	無回答	平均時間
家事(炊事、買物、洗濯、掃除など)	1,062	913	149	3:30
育児、介護	1,062	814	248	1:39
睡眠時間	1,062	928	134	7:07
自由時間(仕事、学校、家事、育児、介護、睡眠、食事など以外の時間)	1,062	897	165	7:22

※平均時間は、回答者数の合計時間を回答者数で割ったもの

問10 男性が家事、子育て、介護、地域活動などに積極的に参画していくためには、どのようなことが特に必要だと思いますか。

調査数		1,062	100%
男性が家事などに参加することについて、男性自身の抵抗感をなくすこと	633	59.6%	
男性が家事などに参加することについて、女性の抵抗感をなくすこと	245	23.1%	
労働時間の短縮や休暇制度の充実を進めること	553	52.1%	
男性が家事などの技能を高められるよう講習会や情報提供を行うこと	210	19.8%	
仕事と生活の両立等の問題について、男性が相談しやすい窓口を設けること	178	16.8%	
家事などを男女で分担するようなしつけや育て方をすること	584	55.0%	
特に必要なことはない	47	4.4%	
わからない	34	3.2%	
その他	34	3.2%	
無回答	13	1.2%	

## 問11 男性が「育児休業制度」、「介護休業制度」を利用することについて、どう思いますか。

調査数	1,062	100%
男性も育児休業・介護休業を積極的に取るべきである	230	21.7%
男性も育児休業・介護休業を取ることは賛成だが、現実的には取りづらいと思う	740	69.7%
男性は休業制度を利用する必要はない	26	2.4%
わからない	35	3.3%
その他	14	1.3%
無回答	17	1.6%

## 問12 「育児休業制度」、「介護休業制度」を利用する男性が少ない理由は、特に何だと思いませんか。

調査数	1,062	100.0%
育児や介護は女性の役割であるという意識が強いから	501	47.2%
周囲に休業制度を利用した男性がいないから	444	41.8%
男性が休業制度を利用しにくい職場の雰囲気があるから	747	70.3%
職場・同僚に迷惑をかけるから	637	60.0%
制度利用後の人事評価や待遇面が心配だから	476	44.8%
仕事上における知識の遅れや技術の低下が心配だから	296	27.9%
休業中の収入が心配だから	478	45.0%
わからない	24	2.3%
その他	22	2.1%
無回答	12	1.1%

## 問13 結婚・妊娠・出産・育児をきっかけに、勤め先を辞めたことはありますか。(既婚女性のみ)

調査数	486	100%
結婚・妊娠・出産・育児をきっかけに勤め先を辞め、1年を超える期間仕事をしなかったことがある	236	48.6%
結婚・妊娠・出産・育児をきっかけに勤め先を辞め、1年以内に別の勤め先へ変わったことがある	32	6.6%
結婚・妊娠・出産・育児をきっかけに勤め先を辞めたことはない	108	22.2%
無回答	110	22.6%

## 問13-1 結婚・妊娠・出産・育児をきっかけに、勤め先を辞めたのはなぜですか。

調査数	268	100%
家事や育児に時間をとりたかったため	116	43.3%
家事や育児等と両立する努力をしてまで続けたい仕事ではなかったため	40	14.9%
時間的、体力的に厳しかったため	93	34.7%
配偶者など家族が希望したため	45	16.8%
家事や育児等に対して配偶者などまわりの人の支援が得られなかったため	50	18.7%
結婚に伴う転居や配偶者の転勤のため	89	33.2%
結婚・出産時の退職慣行や仕事を続けにくい職場の雰囲気があったため	45	16.8%
保育施設や保育サービスが十分利用できなかったため	29	10.8%
わからない	2	0.7%
その他	20	7.5%
無回答	5	1.9%

## 問14 自分の子どもには、どの程度までの教育を受けさせたいとお考えですか(お考えでしたか)。

調査数	男の子の場合		女の子の場合	
	1,062	100%	1,062	100%
中学校・支援学校中学部	1	0.1%	1	0%
高等学校・支援学校高等部	68	6.4%	81	8%
専門・専修学校	41	3.9%	54	5%
短期大学・高等専門学校	27	2.5%	138	13%
大学	729	68.6%	587	55%
大学院	69	6.5%	34	3%
わからない	20	1.9%	19	2%
その他	20	1.9%	24	2%
無回答	87	8.2%	124	12%

## 問15 自分の子どもには、将来どのような生き方をしてほしいと思いませんか(思っていましたか)。

調査数	男の子の場合		女の子の場合	
	1,062	100%	1,062	100.0%
社会的な地位を得る	13	1.2%	5	0.5%
経済的に自立した生活をする	416	39.2%	173	16.3%
人間性豊かな生活をする	134	12.6%	164	15.4%
家族やまわりの人たちと円満に暮らす	109	10.3%	303	28.5%
社会に貢献する	30	2.8%	15	1.4%
本人の個性や才能を生かした生活をする	95	8.9%	86	8.1%
本人の意思に任せる	162	15.3%	183	17.2%
わからない	8	0.8%	7	0.7%
その他	2	0.2%	1	0.1%
無回答	93	8.8%	125	11.8%

## 問16 次のようなことが、配偶者や恋人から相手に対して行われた場合、暴力だと思えますか。

	調査数	どんな場合でも暴力にあたると思う	暴力にあたる場合もそうでない場合もあると思う	暴力にあたるとは思わない	わからない	無回答
物を投げつける	1,062	648	351	13	15	35
	100%	61.0%	33.1%	1.2%	1.4%	3.3%
平手で打ったり、足で蹴ったりする	1,062	919	100	6	6	31
	100%	86.5%	9.4%	0.6%	0.6%	2.9%
殴るふりや蹴るふりをして威嚇(いかく)する	1,062	607	344	48	25	38
	100%	57.2%	32.4%	4.5%	2.4%	3.6%
話しかけても長い間無視する	1,062	289	469	204	62	38
	100%	27.2%	44.2%	19.2%	5.8%	3.6%
大声で怒鳴る	1,062	464	459	81	18	40
	100%	43.7%	43.2%	7.6%	1.7%	3.8%
「誰のおかげで生活できるんだ」、「役立たず」などと言う	1,062	710	244	51	19	38
	100%	66.9%	23.0%	4.8%	1.8%	3.6%
大切にしているものを捨てたり、壊したりする	1,062	675	265	54	30	38
	100%	63.6%	25.0%	5.1%	2.8%	3.6%
外出や携帯電話・メールを細かく監視する	1,062	498	332	128	66	38
	100%	46.9%	31.3%	12.1%	6.2%	3.6%
相手が社会活動や仕事をするのを嫌がる	1,062	210	415	304	90	43
	100%	19.8%	39.1%	28.6%	8.5%	4.0%
必要な生活費を勝手に使う／相手に渡さない	1,062	560	282	107	77	36
	100%	52.7%	26.6%	10.1%	7.3%	3.4%
意に反して性行為を強要する	1,062	690	254	26	60	32
	100%	65.0%	23.9%	2.4%	5.6%	3.0%
意に反してポルノ(アダルト)雑誌・ビデオを見せる	1,062	577	268	85	97	35
	100%	54.3%	25.2%	8.0%	9.1%	3.3%
避妊に協力しない	1,062	582	263	67	115	35
	100%	54.8%	24.8%	6.3%	10.8%	3.3%

## 問17 次のような法律や、相談窓口等を知っていますか。

	調査数	名称も内容も知っている	名称は知っているが、内容は知らない	全く知らない	無回答
DV防止法(配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律)	1,062	379	485	173	25
	100%	35.7%	45.7%	16.3%	2.4%
仙台市配偶者暴力相談支援センター	1,062	136	384	515	27
	100%	12.8%	36.2%	48.5%	2.5%
仙台市「女性への暴力相談電話」	1,062	157	402	478	25
	100%	14.8%	37.9%	45.0%	2.4%
エル・ソーラ仙台「女性相談」	1,062	141	318	572	31
	100%	13.3%	29.9%	53.9%	2.9%
仙台市の各区役所で行っている「子供家庭総合相談」	1,062	129	375	529	29
	100%	12.1%	35.3%	49.8%	2.7%

## ※問17 「知っている」:「名称も内容も知っている」と「名称は知っているが、内容は知らない」の合計

	調査数	知っている小計	全く知らない	無回答
DV防止法(配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律)	1,062	864	173	25
	100%	81.4%	16.3%	2.4%
仙台市配偶者暴力相談支援センター	1,062	520	515	27
	100%	49.0%	48.5%	2.5%
仙台市「女性への暴力相談電話」	1,062	559	478	25
	100%	52.6%	45.0%	2.4%
エル・ソーラ仙台「女性相談」	1,062	459	572	31
	100%	43.2%	53.9%	2.9%
仙台市の各区役所で行っている「子供家庭総合相談」	1,062	504	529	29
	100%	47.5%	49.8%	2.7%

## 問18 東日本大震災後、あなた自身に困ったことや問題は起きていますか(起きましたか)。

調査数	1,062	100%
住み慣れた場所を離れざるを得なくなった	42	4.0%
仕事を解雇された(または仕事を失った)	27	2.5%
震災前よりも収入が減った	114	10.7%
進学先や就職先を変更せざるを得なくなった	15	1.4%
家事、育児、介護等の負担が増えた	49	4.6%
家族や親族等、望まない人と同居することになった	18	1.7%
家族が離れ離れに暮らすようになった	19	1.8%
飲酒量が増えた	25	2.4%
配偶者や恋人からの暴力を受けるようになった(または暴力がひどくなった)	1	0.1%
特に変化はない	709	66.8%
わからない	38	3.6%
その他	84	7.9%
無回答	25	2.4%

## 問19 東日本大震災後、普段の生活において、あなたの意識や気持ちに変化はありましたか。

調査数	1,062	100%
ストレス等で精神的に辛く、眠れなくなった	101	9.5%
孤独を感じるようになった	59	5.6%
何事にもやる気が起きなくなった	61	5.7%
イライラすることが増えた	80	7.5%
人と人とのつながりをより大切に思うようになった	580	54.6%
ボランティアなどで社会に貢献したいと思うようになった	238	22.4%
自分のことは自分で守らなければならないと思うようになった	526	49.5%
知りたい情報は他人に頼らず自分で探すようになった	184	17.3%
特に変化はない	173	16.3%
わからない	22	2.1%
その他	57	5.4%
無回答	11	1.0%

## 問20 今後の災害に備えて、「性別による違い」に配慮した取り組みは、どの程度必要だと思いますか。

	調査数	とても必要だと思う	どちらかといえば必要だと思う	どちらかといえば必要ないと思う	全く必要ないと思う	わからない	無回答
防災計画策定の場に男女がともに参画する	1,062	706	273	8	3	41	31
	100%	66.5%	25.7%	0.8%	0.3%	3.9%	2.9%
町内会や地域の自主防災組織の女性リーダーを増やす	1,062	315	502	99	15	106	25
	100%	29.7%	47.3%	9.3%	1.4%	10.0%	2.4%
避難所の運営マニュアルに男女双方の視点を反映させる	1,062	694	277	13	4	44	30
	100%	65.3%	26.1%	1.2%	0.4%	4.1%	2.8%
避難所運営の責任者に男女がともに加わる	1,062	615	346	24	6	47	24
	100%	57.9%	32.6%	2.3%	0.6%	4.4%	2.3%
男女のニーズの違いに応じた相談や情報提供を行う	1,062	665	313	21	2	30	31
	100%	62.6%	29.5%	2.0%	0.2%	2.8%	2.9%
男女の違いに配慮した救援医療や健康支援を行う	1,062	730	261	10	5	29	27
	100%	68.7%	24.6%	0.9%	0.5%	2.7%	2.5%
復興まちづくりの内容などを決める場に男女がともに参画する	1,062	640	328	18	5	41	30
	100%	60.3%	30.9%	1.7%	0.5%	3.9%	2.8%

## ※問20 必要だと思う割合と必要だと思わない割合

	調査数	必要だと思う小計	必要だと思わない小計	わからない	無回答
防災計画策定の場に男女がともに参画する	1,062	979	11	41	31
	100%	92.2%	1.0%	3.9%	2.9%
町内会や地域の自主防災組織の女性リーダーを増やす	1,062	817	114	106	25
	100%	76.9%	10.7%	10.0%	2.4%
避難所の運営マニュアルに男女双方の視点を反映させる	1,062	971	17	44	30
	100%	91.4%	1.6%	4.1%	2.8%
避難所運営の責任者に男女がともに加わる	1,062	961	30	47	24
	100%	90.5%	2.8%	4.4%	2.3%
男女のニーズの違いに応じた相談や情報提供を行う	1,062	978	23	30	31
	100%	92.1%	2.2%	2.8%	2.9%
男女の違いに配慮した救援医療や健康支援を行う	1,062	991	15	29	27
	100%	93.3%	1.4%	2.7%	2.5%
復興まちづくりの内容などを決める場に男女がともに参画する	1,062	968	23	41	30
	100%	91.1%	2.2%	3.9%	2.8%

問21 男女共同参画社会を実現するために、今後、仙台市はどのようなことに特に力を入れていくべきだと思いますか。

調査数	1,062	100%
企業や団体等において、政策や意思決定の場への女性の登用を促進する	346	32.6%
労働時間の短縮や保育・介護サービスの充実など、男女ともに働きやすい環境を整える	742	69.9%
子育てや介護などで一度仕事を辞めた人への再就職を支援する	490	46.1%
ひとり親家庭の就業や生活自立に向けた支援を充実する	278	26.2%
男性の家事、育児、介護への参加を促進する	248	23.4%
DV・セクハラなど性暴力防止のための取り組みや被害者支援を行う	126	11.9%
男女の身体的な違いに配慮し、生涯を通じた健康支援を行う	213	20.1%
男女共同参画の視点からの震災復興・防災対策を推進する	170	16.0%
特にない	12	1.1%
わからない	27	2.5%
その他	26	2.4%
無回答	37	3.5%